

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	杏番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方々一人一人に個性が有り、それぞれに対して対応やニーズも違って来る中で職員は入居者の方々全員に同じ対応を行うのではなく一人一人に合わせた対応ができるよう、情報収集につとめ入居者の方々ひとりひとりにあったお手伝いをさせていただいています。そして入居者の方々が常に笑顔で過ごすことができるように各職員力を入れております。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年11月 2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は地下鉄富沢駅より徒歩10分と交通の便がよく、まだ野菜畑が残る住宅地の一角にある。近くに小学校、保育園、法人の病院があり入居者はこの近辺を散歩し子供達と触れあい、住民の方との交流を楽しんでいる。3つのユニットからなり、連携はとれている。職員同志のコミュニケーションがよく明るく、元気よく、心優しく寄り添う介護に前向きに取り組んでいる姿に好感がもてる。「入所して6年になるが認知は進んでいない」「表情のない人ですが職員の声かけで笑顔になる」「何の心配はない。安心して居られる」と本人から聞く」との家族の声からもこのホームの特徴が伺える。町内会の協力が得られる中で地域に開かれた事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:やすらぎホーム富沢)

吉番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を元に、なぜ地域とのつながりが必要なのかを考え地域との連携を実践している。	「やすらぎホーム富沢」に基本理念がある。これを基に3つの各ユニットで目標を作成し半年毎に全体会議で確認し、年度末に反省と見直しをしている。今年度より新目標を掲げ日々のケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはできるだけ参加するようにし、入居者の方々と地域の方々が顔を合わせる機会を作るようにしている。以前に比べるとより良い交流ができていると感じている。	町内会に加入し、秋祭りや小学校の運動会、保育園の芋収穫祭等に招待される。ホームの夏祭り時は町内会の協力を得て、盆踊りや屋台、ヨーヨー店等を出し子供も大人も多数の参加があり交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で発行している広報紙にはホームでの生活がどのような様子なのかを記載している。そのほか運営推進会議にて報告相談など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域や他事業所と話し合い入居者の方々が参加できるような行事を紹介してもらったり、他職種から見てのサービス向上のための話し合いを行っている	2ヶ月毎に開催している。包括支援センター、町内会長、民生委員は毎回出席している。ホームの現状報告、地域の情報交換があり話し合いをしている。入居者、家族の参加が課題となっているが実現に至っていない。	運営推進会議は参加者より意見、要望を頂きサービス向上に具体的に活かしていくために重要な会議です。行事等に合わせて開催するなど工夫して入居者、家族の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か困ったことがあった場合は仙台市に連絡しどのように対応すればよいのか相談するようにしている。	介護保険更新、区分変更の手続きや困難事例の話し合いに担当者に相談、助言を頂いている。地域包括支援センターの勉強会「町内会と高齢者の関わり」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。そして管理者だけが知識を提供するだけではなく、各職員が自分たちで考え「なぜ行ってはいけないのか」というところで勉強会を行い知識の共有に努めている。	ユニット間を自由に出入りできるよう施錠はしていない。入居者が外に出る様子を見かけたらずっと側に寄り一緒に行動するようにしている。職員は法人病院の勉強会等内部研修や外部研修に参加して身体拘束により受ける弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会も設けており、身体拘束と同様にどのような行為が虐待につながるのかを委員がまず勉強しその後職員に周知するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている入居者の方々もおり、必要に応じて他の方々にも制度の利用をお話させていただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わすときはしっかりご説明させていただき、不明な点などはその場でお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられた時に積極的にお声をかけることでご家族様からのご意見やご要望なども聞き取るようにしている。上がってきたご意見は主任者会議などで検討し反映させていただいている	家族の面会時やケアプラン説明時に意見、要望を気軽に話し合える機会をつくっている。出された意見は職員で話し合い前向きに検討している。「部屋の掃除」「ペーパータオルの設置」「外に連れ出してほしい」等に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などの場で職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員と管理者の間で気軽に意見を言える関係を作っているためその都度話するようにしている	管理者は職員と年1回、態度等が気になった時はその都度個人面談をしている。また月1回の法人運営会議に出席し職員から出た意見、提案等報告している。資格取得には給料に反映する等奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課を行い、職員一人ひとりの評価につなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人ないの研修会が有りそれには積極的に参加するようにしている。またホーム内でも勉強会を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会をどうして知り合った同業者と情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方々が困らないように事前にご家族様などから聴取し対応している。また入居されてからもご本人とお話させていただき不安を取り除き笑顔で暮らしていたできるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階からご家族様やご本人様が困っていることを聴取し、入居される時に安心していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様にはグループホームの入居という選択肢だけではなく、状況に合わせてたサービスの活用も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々が出来ることを最大限發揮できるように各職員努めている。各職員にも一方的に提供することは良いことではないことを周知し、出来る限り入居者の方々に達成感を感じていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況にもよるがご家族様が来所しやすい環境をつくり、入居者の方々ご家族様が笑顔で過ごすことができるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方々がそれまで気づいてきた関係をご本人様やご家族様から聴取し、関係が途切れないようにご家族様と協力して支援に努めている	幼馴染みへの訪問や三越への買物を付き添う等これまでの関係が継続できるよう支援している。誕生日には個別外出があり「どこへ行きたいですか」と問いかけ、会いたい人、馴染みの場等に一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうし居室を行き来できるように支援している。また、ひとりを好まれるような時もそのままにするのではなく職員が間に入り関係性が保てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談にこられるご家族様もおりその都度対応させていただいている。そしてご家族様が納得していただけるように支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメントを行う際に日常生活の中での会話の中からご本人様が実際に何を望まれているのか聴取したり、言動や表情から本人の気持ちを汲み取るようにしている	職員は日々の関わりや会話の中で「何をしたらその日を楽しくすごせるか」をみつけたし行動している。手編みマフラーを編んでいる方がいる。各ユニットで歌が好き等趣味の合う方を集めて一緒に楽しむ支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時、日常生活の会話の中でご家族様や本人に生活歴や、馴染みのあるものなどを伺い新しい発見があった時はスタッフで情報を共有できるようにしている。また出来ることできないことの見極めをおこない、出来ることを全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様にお話を伺ったり、日常生活の中での会話や些細な言動や表情の変化に気づくことができた場合は、その都度本人様の気持ちを汲み取り更新している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や人事のカンファレンスで職員同士で話し合い意見交換をしている。また、ご家族様からのアドバイスも含め計画に反映できるようにしている	月1回のモニタリングやユニット会議で話し合った事を基に3ヶ月ごとに見直し、介護計画書を作成している。家族に説明し同意を得ている。来られない家族には電話で話したり、郵送の時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には細かい変化でも見逃さず記入し、口頭でもスタッフ全員に申し送りが伝わるまで行い情報が共有出来る様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中でスタッフが業務にとらわれずその日その人の状態を把握し臨機応変に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや学校行事にも参加させていただき地域の方々とのふれあいを大切にしている。トド元の触れ合いで涙を流されたり、感情や心が豊かになっておられる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の思いを尊重し、自分で伝えられる方は自分の言葉で状態を伝えていただくようにし補足が必要な場合など介入させていただいている。伝えることが難しい方に対しては代弁させていただいているがご家族様ともご相談させていただきご本人にとって一番良い受診の方向を医療につなげるようにしている	要望によりかかりつけ医を受診している。富沢病院に9名、往診クリニックに6名受診している。結果は受診報告書に記載し、申し送り時に職員に周知している。状態の悪くなった時は往診クリニックに移行して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は昼夜共に関わりを持つているため看護師に状態の変化等申し送りを行うように徹底している。体の状態はもちろん、入居者の方々のADLや精神状態の相談など行いより良いケアに繋がるように連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したことで不安になる方が多いが一日も早く退院し季節できるように関係医療機関ともこまめに連携を取りながら早期退院につなげるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や主治医、職員が早期からこまめに連絡を取り合っているそして各職員がチームとして動き入居者の方々やご家族様が望まれるような最後を迎えることができるように努めている	重度化や看とりにむけた指針があり、同意も頂いている。医療連携も整っており、重度化や終末期を支えていく力量や体制がある。職員全員が往診クリニックの先生の「看とりについて」の勉強会を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の方々に何かあった場合には管理者に連絡が取れるように体制を整えている。救急車や家族、管理者が来るまで何ができるかを話し訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回日中、夜間想定避難訓練を実施しており入居者様にも参加していただいている。また、消防の方にも来ていただき直接的な指導をしていただいている。地域の方にもご協力をお願いし参加していただいている	3ユニット一斉の避難訓練を実施している。出火場所を各ユニット毎に設定する。地域の方に入居者の避難誘導をお願いしている。町内会の防災訓練に参加している。防災設備の定期点検、備蓄の点検もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの身体的精神的状況や性格などに合わせ声がけや対応を行なっている。また、不必要な介入はせず必要な時は利用者様やご家族様に理由を話ご了解を経てから行うようにしている	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう声がけや声のトーンに注意している。トイレ誘導の声がけは羞恥心に配慮した誘いに工夫している。「富沢ホーム便り」に記載する写真は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動などこまめに観察し、少しでも変化があればこちらから声をかけるようにしている。思いや希望をうまく表すことが難しい方に対してはこちらから話題を提供し、更に答えを選択していただくような形で自己決定して頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望があれば食事の時間をずらしたり、お茶の時間に居室でお茶を飲んで頂いたり対応している。外出したい方などはなるべくその日に外出できるよう対応を行っており、ひとりひとりのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類などがあればご家族様に持ってきていただいている。また、更衣の際にも本人様と一緒に服を選びその日着たいものを来ていただいている。また誕生日などには好まれる方に対してはマニキュアやアクセサリーなどもプレゼントしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から皆様の好きな食べ物や食べたいものを聴取しメニューに取り入れるようにしている。簡単な下ごしらえや盛りつけなど手伝っていたり、職員も同じテーブルと一緒に食事をしている	献立は職員が作成する。半年に1回病院の栄養士に見て頂いている。食材は入居者と一緒に行きに行く。食器は自分の物を使っている。誕生日ケーキやクリスマスケーキは家族も一緒に作る。回転すし等への外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はハーフスよく提供し水分も決められた時間だけではなく状態に合わせて提供し摂取量を確保している。食事あまり召し上がられていない方に対してはお声がけはもちろん、時間をおいてみたり、別なものを提供するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら口腔ケアを行うことができる方に対してはお声がけを行ったり見守りのもと行って頂くようにしている。自力では難しい方に対しては介助を行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、各入居者の排泄パターンを掴むようにし、汚染せずに入居者の方々が嫌な思いをしないで済むようにお手伝いさせていただいている。また、状態に合わせて布パンツなども検討するようにしている	排泄チェック表を活用し、尿意のない方も時間を見計らい失敗のないよう誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。夜間は安眠を考え個別に対応しているが安眠か汚れた不快感や冷えての対応かを模索中の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解できるように職員へはが看護師から説明していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は入りたい時に入浴していただけるようにお声がけし、気持ちよく入浴していただけるように湯船の温度や脱衣所の室温など設定している。	本人の要望によって週3～4日の入浴を基本にしている人もいる。入居者にその日の希望を確認して入って頂いている。拒否の方は会話の流れ、タイミング、手をつないで入る等工夫している。ゆず湯、菖蒲湯等がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や体調に合わせて居室にて休んでいただく。いえで過ごしている時と同じようにそのひとに応じて居室の環境を整え安心して休んでいただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとり受信報告書や処置板を確認しスタッフ間で申し送りをしっかり行い薬について理解し変化や状態についてスタッフ同士確認する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々がやりたいことを行えるように、好みを把握し、好みに応じた楽しみごとや気分転換に繋がるようなことを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物や、映画や外食など希望に沿って外出できるように支援している。また季節によって行事を計画しお花見や七夕に外出したりしている	花見、七夕等季節を感じる行事を計画し外出している。各ユニット毎新聞の広告を見て買物や外食、雑誌を見て薬菜山のコスモス祭り等出かける事もある。日常的には近隣の小学校や保育所の周りを散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ付き添いで買い物や外出に行かれた際に一緒にお金を払っていただいたりしている。また、ご自分でお金の管理を行なっているかたはご本人様に支払いをお願いすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方々がのご希望に合わせて電話や手紙のやり取りの支援を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には外出時やホームでの生活の様子を写した写真を飾ったり、入居者の方々の手作りの作品などの飾るようにしている。窓も大きく多いため自然光も入り、窓を明外の景色を見るなどもしている。	居間は広く、窓や天窓から入る自然の光で明るい。堀コタツや壁の手作りの貼り絵が季節を感じさせる。行事毎の写真は家族が手にとってみられるよう工夫がある。入居者は小あがりで昼寝をしたり、ソファに座ってテレビをみたりと思いいいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、ソファ席や小上がりなどにも自由に座っていただいている。またテレビの見やすい位置に自由に移動し思い思いのままに過ごせるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者様やご家族様が面会に来ていただいた時に過ごしやすい空間を作っていただくようにしている。また、居室に馴染みのものが少ない方に関しては、写真などを飾り生活館を出す工夫をしている	居室入り口に職員の手作りの表札が掲げられている。全室8畳間でゆったりとしている。使い慣れた筆筒、テーブルと椅子、位牌等が持ち込まれ、壁に手作りの作品や家族の写真が飾られその人らしい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの中には出来るだけものを隠すのではなく使いたい時に使っていただけるようにわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	貳番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>周囲に田畑や学校、保育園、公園があり散歩などを通して季節を感じていただいたり、農作業などについて質問することで、本人様の意欲や自身につなげている。学校や保育園とは交流があり運動会やお祭りなどに参加させていただくことで地域との交流や小さな子供との触れ合いの場も提供できている</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年11月 2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は地下鉄富沢駅より徒歩10分と交通の便がよく、まだ野菜畑が残る住宅地の一角にある。近くに小学校、保育園、法人の病院があり入居者はこの近辺を散歩し子供達と触れあい、住民の方との交流を楽しんでいる。3つのユニットからなり、連携はとれている。職員同志のコミュニケーションがよく明るく、元気よく、心優しく寄り添う介護に前向きに取り組んでいる姿に好感がもてる。「入所して6年になるが認知は進んでいない」「表情のない人ですが職員の声がかけて笑顔になる」「何の心配はない。安心して居られる」と本人から聞くとの家族の声からもこのホームの特徴が伺える。町内会の協力が得られる中で地域に開かれた事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:やすらぎホーム富沢)

式番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標を一年ごとにユニットで考え理念を実行できるようにしている。半年ごとに一度目標を振り返って出来ている点、できていない点を皆で考えその後につなげるようにしている	「やすらぎホーム富沢」に基本理念がある。これを基に3つの各ユニットで目標を作成し半年毎に全体会議で確認し、年度末に反省と見直しをしている。今年度より新目標を掲げ日々のケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、地域行事にスタッフ、利用者の方々と共に参加させていただいている。また、ホームでの夏祭りなどの際には回覧板で回していただいたり、スタッフが近隣の方々にご挨拶させていただくなど交流するようにしている	町内会に加入し、秋祭りや小学校の運動会、保育園の芋収穫祭等に招待される。ホームの夏祭り時は町内会の協力を得て、盆踊りや屋台、ヨーヨー店等を出し子供も大人も多数の参加があり交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームないの活動を広報したので知っていただいたり、玄関先での園芸や野菜作りを行って往來の方に活動が見えるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見を全体会議で話し合い、サービスの向上につなげられるようにしている	2ヶ月毎に開催している。包括支援センター、町内会長、民生委員は毎回出席している。ホームの現状報告、地域の情報交換があり話し合いをしている。入居者、家族の参加が課題となっているが実現に至っていない。	運営推進会議は参加者より意見、要望を頂きサービス向上に具体的に活かしていくために重要な会議です。行事等に合わせて開催するなど工夫して入居者、家族の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点などがあるときは市に連絡しご指導していただいたりしている	介護保険更新、区分変更の手続きや困難事例の話し合いに担当者に相談、助言を頂いている。地域包括支援センターの勉強会「町内会と高齢者の関わり」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の委員会を設けており、勉強会を開くことでスタッフの身体拘束防止の意識と意識を高めている	ユニット間を自由に出入りできるよう施錠はしていない。入居者が外に出る様子を見かけたらずっと側に寄り一緒に行動するようにしている。職員は法人病院の勉強会等内部研修や外部研修に参加して身体拘束により受ける弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、勉強会を開きどのようなことが虐待に当たるのかスタッフ全体の意識を高められるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護等に関する研修に参加し、必要に応じて制度を活用に支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関し不明な点があれば傾聴し疑問に答えられるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時にスタッフから声をかけさせていただき意見をいただけるようにしている。いただいたご意見は会議などで話し合い今後のケアや運営に活かせるようにしている	家族の面会時やケアプラン説明時に意見、要望を気軽に話し合える機会をつくっている。出された意見は職員で話し合い前向きに検討している。「部屋の掃除」「パーパータオルの設置」「外に連れ出してほしい」等に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議などで職員が意見をいうことのできる場を設け反映できるようにしている	管理者は職員と年1回、態度等が気になった時はその都度個人面談をしている。また月1回の法人運営会議に出席し職員から出た意見、提案等報告している。資格取得には給料に反映する等奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行いひとりひとりの目標を立てその達成度を見極めつつ評価できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	わからないことや知りたいことをアンケートし、勉強会を開くことで知識や技術の向上を促している。また、各自委員会に所属し自ら勉強しそれを周知できるように進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通じて同業者と情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時入居者の方々が不安に思っていること、困っていることをご家族様からも聴取し出来るだけ不安を感じつつ安心して過ごして頂けるように支援を行いコミュニケーションを図るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていることや困っていることに対し傾聴を行いながら不安を取り除きご家族様が安心していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で現状を把握しグループホームの他にもサービスを紹介させていただきその時の状況に合わせたサービスも視野に入れつつ支援させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何を望まれているのかを理解し、提供されるだけの一方的な関係にはせずお互いに助け合いながら生活しているということを実感していただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が生活するうえでご家族様からの話を聞くことや連絡を密にとり状況をその都度報告することでご家族様と職員と一緒にご本人様を支える関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間などは設定しておらずいつでも来ていただけるように支援している。ご本人様の馴染みの環境を大切にしながら関係を保てるように慣れ親しんだ場所への散歩や美容室に出かけるなど支援している	幼馴染みへの訪問や三越への買物を付き添う等これまでの関係が継続できるよう支援している。誕生日には個別外出があり「どこへ行きたいですか」と問いかけ、会いたい人、馴染みの場等と一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や個性を把握、考慮し、スタッフが間に入り関係を保つことやホーム全体を通してコミュニケーションを図るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談に応じることが出来ることを退去される際にご説明させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの希望や意向を聴取する他にも日常生活での会話や反応などからニーズを探りケアプランに行かせるようにしている。ご家族様にも面会時などにお話を聞くようにしている	職員は日々の関わりや会話の中で「何をしたらその日を楽しくさせるか」をみつけたし行動している。手編みマフラーを編んでいる方がいる。各ユニットで歌が好き等趣味の合う方を集めて一緒に楽しむ支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の週刊や趣味を聴取し、ほ一むにおいても可能な限り続けていただけのように支援している。馴染みの場所などがあれば外出などにお誘いし地域とのつながりも保てるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に言動を細かく記載し申し送りの際にも伝えられる様にしている。ユニット会議においても個人検討を行い情報の共有を行なっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からご意見を聴取するとともに、日常の関わりからもニーズを探りケアプランに反映できるようにしている	月1回のモニタリングやユニット会議で話し合った事を基に3ヶ月ごとに見直し、介護計画書を作成している。家族に説明し同意を得ている。来られない家族には電話で話したり、郵送の時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した結果をケース記録に記入するようにしている。また申し送りでも伝えるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前から利用されており、入居後も利用していきたいという方に対してはホームの枠にとらわれず出来るだけ対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるレストランやスーパーを積極的に利用し、外食や買い物を楽しむことができる場面をできるだけ作るようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様と相談しつつご希望されている医療機関を利用していただけようようにしている。また、状態の変化に合わせて往診などに対応して頂けるような医療機関を紹介したりしている	要望によりかかりつけ医を受診している。富沢病院に9名、往診クリニックに6名受診している。結果は受診報告書に記載し、申し送り時に職員に周知している。状態が悪くなった時は往診クリニックに移行して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも気づいた点は看護師に報告する様にしている。状態に合わせて受診につなげたり、医療機関に問い合わせるなど対応できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからもご家族様や医療機関とこまめに連絡を取り、状況の把握に努め、早期退院につなげることができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴うターミナルケアについてご説明させていただいているが、状況の変化に合わせてその都度ご説明させていただいている。最終的に、ご家族様やご本人様が望まれている方向性になるよう支援させていただいている	重度化や看とりにむけた指針があり、同意も頂いている。医療連携も整っており、重度化や終末期を支えていく力量や体制がある。職員全員が往診クリニックの先生の「看とりについて」の勉強会を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートや連絡網を用いて対応できるようにしている。応急処置に関しても看護師に指導していただきながら対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の方を含めた避難訓練を行っている。それ以外にも2ヶ月に1回は火災を想定したk避難訓練を行っている。	3ユニット一斉の避難訓練を実施している。出火場所を各ユニット毎に設定する。地域の方に入居者の避難誘導をお願いしている。町内会の防災訓練に参加している。防災設備の定期点検、備蓄の点検もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、その日の状態気持ちに合わせた声かけ対応を心がけている	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう声かけや声のトーンに注意している。トイレ誘導の声かけは羞恥心に配慮した誘いに工夫している。「富沢ホーム便り」に記載する写真は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の意思を表出していただけるよう質問の方法を工夫したり、話題を振りつつご本人様の表情の変化を確認しながら事後決定につなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々が思い思いのままに生活していただけるように職員はサポートさせていただけるだけ希望に添えるよに支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を切るなどできるだけご本人様のご希望に添えるよう支援している。また、着ていただく服などもできるだけ望まれるようなものを着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の栄養、食べやすさ、好みを考え食事の準備を行なっている。盛りつけや後片付け、下ごしらえなど職員とともに行っていただき一緒に生活を送っているという生活感を共有できるようにしている	献立は職員が作成する。半年に1回病院の栄養士に見て頂いている。食材は入居者と一緒に行きに行く。食器は自分の物を使っている。誕生日ケーキやクリスマスケーキは家族も一緒に作る。回転すし等への外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はひとりひとりチェック表を作成し確認している。その際摂取量が少ない場合などは代替になるものを検討しながら提供し摂取量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの状態に合わせ口腔ケアの声かけや介助を毎食後行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握することで事前に声がけし、失敗を少なくすることができるよう対応している	排泄チェック表を活用し、尿意のない方も時間を見計らい失敗のないよう誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。夜間は安眠を考え個別に対応しているが安眠か汚れた不快感や冷えての対応かを模索中の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し排便が滞ることのないように乳製品や水分の提供、散歩の声がけ等を行なっている。薬以外での改善を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、就寝前に入りたい方や、夕食後はすぐに休みたい方には日中にお声がけさせていただいたり職員の都合で決めるのではなくご本人様のご希望に添えるように支援している	本人の要望によって週3~4日の入浴を基本にしている人もいる。入居者にその日の希望を確認して入って頂いている。拒否の方は会話の流れ、タイミング、手をつないで入る等工夫している。ゆず湯、菖蒲湯等がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を妨害することのないように巡視を行い、室温、光量などに注意し好みに合わせて休むことができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受信表酷暑に処方内容を記入しお薬の説明書もケース記録にファイリングしつつでも目を通せるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の聴取や家族様の話などから趣味や嗜好を探り現在出来ていないことでも介入することでできることがあれば提供するようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど外でと出たい機会を設けている。また、本人様のなじみの場所を聴取してその場所に出かけることができるよう支援している	花見、七夕等季節を感じる行事を計画し外出している。各ユニット毎新聞の広告を見て買物や外食、雑誌を見て薬菜山のコスモス祭り等出かける事もある。日常的には近隣の小学校や保育所の周りを散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、お金をもっていないと心配される方もおられるためお財布を持っていただくことで安心していただける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時電話や手紙を送るなど支援させていただいている。耳が遠い方に関してはご本人に変わり職員が要件を伝えさせていただいたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やろうかに観葉植物を置いたり、写真を貼ったりしている。また、ホールでは天窓より光を取り入れ柔らかい空間を作り出している。入居者の方々の状態に合わせて室温、湿度管理をしております心地よい空間を作るようにしている	居間は広く、窓や天窓から入る自然の光で明るい。堀コタツや壁の手作りの貼り絵が季節を感じさせる。行事毎の写真は家族が手にとってみられるよう工夫がある。入居者は小あがりで昼寝をしたり、ソファに座ってテレビをみたりと思いいいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳席を好まれる方、ソファを好まれる方などその方が好きな場所で過ごしていただけるよう空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様にもご協力を待たずから馴染みのものが多い状態にしている。なじみのものが少ない方に関しても写真を飾るってみたりご本人様がお気に入りのぬいぐるみなどを配置し居心地の良い空間を提供できるように工夫している	居室入り口に職員の手作りの表札が掲げられている。全室8畳間でゆったりとしている。使い慣れた筆筒、テーブルと椅子、位牌等が持ち込まれ、壁に手作りの作品や家族の写真が飾られその人らしい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の場所には何がどこにあるのかわかるように表示し、行きたいとき、使いたいときすぐに行動に移せるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢 ユニット名 参番館		
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日々笑顔で生活していただくためにはどのようにお手伝いさせて頂ければ良いか常に考えております。笑顔でいていただくためには職員と一緒に歌も歌いますし、体操もします。得意なことはどんどん行っていただきます。お手伝いいただいたあとお礼を言ったとき、出来栄を褒めたとき、何とも言えない満面の笑みを浮かべて照れている姿を大切にしていきたいと考えています</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 24年11月 2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は地下鉄富沢駅より徒歩10分と交通の便がよく、まだ野菜畑が残る住宅地の一角にある。近くに小学校、保育園、法人の病院があり入居者はこの近辺を散歩し子供達と触れあい、住民の方との交流を楽しんでいる。3つのユニットからなり、連携はとれている。職員同志のコミュニケーションがよく明るく、元気よく、心優しく寄り添う介護に前向きに取り組んでいる姿に好感がもてる。「入所して6年になるが認知は進んでいない」「表情のない人ですが職員の声かけで笑顔になる」「何の心配はない。安心して居られる」と本人から聞く」との家族の声からもこのホームの特徴が伺える。町内会の協力が得られる中で地域に開かれた事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:やすらぎホーム富沢)

参番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたホームの目標を作成し、その目標を達成するためにユニットごとの目標を作成し理念を実行できるように努めている	「やすらぎホーム富沢」に基本理念がある。これを基に3つの各ユニットで目標を作成し半年毎に全体会議で確認し、年度末に反省と見直しをしている。今年度より新目標を掲げ日々のケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているとともに、できるだけ地域にある資源を活用し町内会の行事にも参加させていただいたり、小学校の運動会を見学させていただいたり、保育園の夏祭りにも参加させていただいている。また、子供110番の家として登録もしている。	町内会に加入し、秋祭りや小学校の運動会、保育園の芋収穫祭等に招待される。ホームの夏祭り時は町内会の協力を得て、盆踊りや屋台、ヨーヨー店等を出し子供も大人も多数の参加があり交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの様子をまとめた広報誌を回覧板で回していただきホームでの生活を知っていただく機会を作っている。また、地域包括支援センターからの依頼で地域の認知症を抱えるご家族様とお話させていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出していたご意見や、ご要望などはホームに持ち帰りサービスの向上につなげることができるようにしている。	2ヶ月毎に開催している。包括支援センター、町内会長、民生委員は毎回出席している。ホームの現状報告、地域の情報交換があり話し合いをしている。入居者、家族の参加が課題となっているが実現に至っていない。	運営推進会議は参加者より意見、要望を頂きサービス向上に具体的に活かしていくために重要な会議です。行事等に合わせて開催するなど工夫して入居者、家族の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点、疑問な点などは積極的にご相談しご助言をいただくようにしている	介護保険更新、区分変更の手続きや困難事例の話し合いに担当者に相談、助言を頂いている。地域包括支援センターの勉強会「町内会と高齢者の関わり」に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員のメンバーが中心と足りまず、自分たちが勉強会を行い身につけた知識を他のスタッフに周知するため勉強会を行ない身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間を自由に出入りできるよう施錠はしていない。入居者が外に出る様子を見かけたらずっと側に寄り一緒に行動するようにしている。職員は法人病院の勉強会等内部研修や外部研修に参加して身体拘束により受ける弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様虐待防止委員会のメンバーが自分たちが行っている何気ないケアが虐待につながっていないかなど省みる機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要性があるご家族様には制度の活用をすすめるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改訂の際はその都度ご説明を行い疑問点などはいつでもご相談いただけるよう説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別、ご家族様からのご意見を聴取する機会は設けていないが、面会時やケアプランの説明時、行事に参加していただいた際に積極的にご家族様のご意見を聞くようにし、その後につなげるようにしている	家族の面会時やケアプラン説明時に意見、要望を気軽に話し合える機会をつくっている。出された意見は職員で話し合い前向きに検討している。「部屋の掃除」「パーパータルの設置」「外に連れ出してほしい」等に対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場からでた意見や、要望等、改善できる点は早急に改善できるようにしている	管理者は職員と年1回、態度等が気になった時はその都度個人面談をしている。また月1回の法人運営会議に出席し職員から出た意見、提案等報告している。資格取得には給料に反映する等奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員個々の状態を把握しその後の職場環境や条件の向上につながるよう代表者に相談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間のテーマに基づいて管理者、ユニット長を中心に勉強会を行うことによりスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域の事業所の交流会などで情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より不安なことや困っていることなどご家族様や本人様より聴取し安心して入居していただけるよう支援している。入居されてからもご本人様の状態を伺いながら安心して生活していただける関係を作るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも不安に思っていることなど聴取するようにし安心してご本人様を預けていただけるような関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その場、その場に応じてその時必要な支援をグループホーム以外のサービスも念頭に置きながらその時点でベストであるサービスを紹介させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分にもまだまだできることがあると自信を持っていただけるように「出来ること」「できないこと」の見極めを行い出来ることを行っていたきとも生活を送っている仲間と思っていたけるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のよりよい生活の為スタッフからご家族様にも積極的に情報を聞き取りともに支えている仲間だと思っただけのように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みの場所を普段の会話などから聞き取り可能であればその場所に出かけてみたり、面会に来ていただいた時などでもきやすい雰囲気を作れるだけ作れるよう支援している	幼馴染みへの訪問や三越への買物を付き添う等これまでの関係が継続できるよう支援している。誕生日には個別外出があり「どこへ行きたいですか」と問いかけ、会いたい人、馴染みの場等と一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが介入しながら話しやすい空間を作りつつ輪の中には入れない方なども仲良く会話を楽しんでいただけるよう関係性を作るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでもご相談に乗る旨をその都度ご説明している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々の現在までの暮らしをご本人様との会話やご家族様から聴取することで把握し、利用者ひとりひとりの意向にあったケアを行っていきけるようその都度スタッフ間で話し合っている	職員は日々の関わりや会話の中で「何をしたらその日を楽しくすごせるか」をみつけたし行動している。手編みマフラーを編んでいる方がいる。各ユニットで歌が好き等趣味の合う方を集めて一緒に楽しむ支援もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報に目を通すことはもちろん、自分でもコミュニケーションをとる中で情報を得たり、ご家族様にも確認したりすることでご家族様ともコミュニケーションをとるようにし、より詳しい嬢をうや経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に入居者の方々の行動や、言動、レクリエーション時の様子などをこまめに記録し本人の状態などスタッフ全員が記録に目を通し情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、ケアマネ、スタッフが持っている情報を共有しそれを元にアセスメントを作成している。	月1回のモニタリングやユニット会議で話し合った事を基に3ヶ月ごとに見直し、介護計画書を作成している。家族に説明し同意を得ている。来られない家族には電話で話したり、郵送の時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入居者様の状態を細かく記入しそれを読むことで全員で共有し気になるような点などが出来た場合はその都度話し合い改善する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内での生活にとらわれるのではなく、取り入れられるものは地域資源でもなんでも取り入れご本人様のニーズに添えるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要なものの買い物や気分転換、外食を気の合う方同士で行かれたりするなど地域にある資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方々やご家族様のご希望される病院に通っていただくようにし、受診の付き添いを行なっている。変わりがある場合は受診後にご家族様に電話にて報告を行なっている	要望によりかかりつけ医を受診している。富沢病院に9名、往診クリニックに6名受診している。結果は受診報告書に記載し、申し送り時に職員に周知している。状態が悪くなった時は往診クリニックに移行して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良、血圧の変動などがあればすぐに看護師に報告し支持を仰ぐようにしている。看護師が不在の場合は、かかりつけの病院に連絡し支持を仰ぎ必要であれば受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間が短く済むように入院後早め入院先の医師や相談員と連携し情報交換を行なっている。また、ご家族様とも密に連携をとるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様はもちろん主治医、看護師、介護員も含め話し合いを行いご本人様やご家族様のご希望に添えるよう支援している。ご家族様にはホームで出来ること、できないことの説明もしている	重度化や看とりにむけた指針があり、同意も頂いている。医療連携も整っており、重度化や終末期を支えていく力量や体制がある。職員全員が往診クリニックの先生の「看とりについて」の勉強会を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローチャートや、マニュアルを作成しそれに基づき勉強会を行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、火災時、地震時を想定して年に3回ずつ避難訓練を行なっている。夜間の火災想定時は近隣の方々にもご協力をいただき避難訓練を行なっている	3ユニット一斉の避難訓練を実施している。出火場所を各ユニット毎に設定する。地域の方に入居者の避難誘導をお願いしている。町内会の防災訓練に参加している。防災設備の定期点検、備蓄の点検もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの状態に合わせた声かけを行い、入浴時や排泄時は特に気をつけている。状態を見極めながらできることは行っていただけるよう支援している	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう声かけや声のトーンに注意している。トイレ誘導の声かけは羞恥心に配慮した誘いに工夫している。「富沢ホーム便り」に記載する写真は家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でのいろいろな場面でご本人様の意思を確認しながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がやりたいこと、希望を聞いて支援したり、ペースに合わせて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類をご本人様に選んでもらったり、職員と一緒に選んだりしている。希望があれば散髪の付き添いも行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告の食材を見たり、今日のメニューはなんだらうなど関心を持っていただけるような会話をしたり、盛りつけや調理のお手伝いいただくほか、テーブルを拭いていただくなど入居者の方々と職員と楽しんで食事の準備を行なっている	献立は職員が作成する。半年に1回病院の栄養士に見て頂いている。食材は入居者と一緒に買いに行く。食器は自分の物を使っている。誕生日ケーキやクリスマスケーキは家族も一緒に作る。回転すし等への外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量をひとりひとり確認しチェック表に記入している。偏った食事にならないよう気をつけ、食欲がないときや水分が進まないような時は代替となるものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行っていただける方に対してはお声かけを、一人では難しい方に関しては介助を毎食ご行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、ご自分で行かれる方はパターンに合わせた声がけ、見守りを行い、できるだけ失敗という体験をせずに済むように支援している	排泄チェック表を活用し、尿意のない方も時間を見計らい失敗のないよう誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。夜間は安眠を考え個別に対応しているが安眠か汚れた不快感や冷えての対応かを模索中の方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、乳製品の提供を行ったり、トイレに座られてからも腹部を温めたりマッサージをするなどお薬になるべく頼らずに済むよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は好きな方ばかりではないのでひとりひとりそれぞれの希望やタイミングや様子を見ながら入っていただけるよう支援している。	本人の要望によって週3~4日の入浴を基本にしている人もいる。入居者にその日の希望を確認して入って頂いている。拒否の方は会話の流れ、タイミング、手をつないで入る等工夫している。ゆず湯、菖蒲湯等がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間を固定にするのではなく、その日その時の状況に合わせて休んでいただくことにより安心して安眠していただける		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認や、内服の漏れが内容に努めている。お薬の内容はケース記録にファイリングしてあるためその都度内容を確認することができる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の方々のその時の思いを一番に考えやりたい事、出来ることを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日や外食のご希望があるときなど、外食などの機会を設けている。また、散髪などもご本人がご希望される時に出かけられるよう支援している	花見、七夕等季節を感じる行事を計画し外出している。各ユニット毎新聞の広告を見て買物や外食、雑誌を見て薬菜山のコスモス祭り等出かける事もある。日常的には近隣の小学校や保育所の周りを散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理される方もおられ、そのことで安心感につながっている。買い物の際にお金を持っていただき、お支払いをしていたくこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご希望される時など支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような装飾を施したり、室温、湿度には気をつけるようにしている。	居間は広く、窓や天窓から入る自然の光で明るい。堀コタツや壁の手作りの貼り絵が季節を感じさせる。行事毎の写真は家族が手にとってみられるよう工夫がある。入居者は小あがりで昼寝をしたり、ソファーに座ってテレビをみたりと思いいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて安心して過ごしていただけるように明るい楽しい雰囲気を提供できるように努めている。また一人になりたい思いも大事にしちょっと離れたところにソファを置いたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご協力をいただき馴染みのモノや写真を持ってきていただいたりしている。また、居心地よく過ごしていただけるよう整理や掃除など清潔に心がけている	居室入り口に職員の手作りの表札が掲げられている。全室8畳間でゆったりとしている。使いなれた筆筒、テーブルと椅子、位牌等が持ち込まれ、壁に手作りの作品や家族の写真が飾られその人らしい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行きたいとき、使いたいとき行こうことができるよう、ものがしまっているところなどには表示がして分かりやすいようにしてある		